

経営ビジョン

急速に悪化する建設労働者不足と高齢化に対し、デジタル技術の活用によりバックオフィスとの連携を図り、業務効率の最大化と顧客サポートの強化、安全・品質・コストの管理を徹底し、持続可能な社会への貢献と従業員の可処分所得の向上、社員の働き方改革の実現を目指します。

経営ビジョンの実現に向けた ビジネスモデルの方向性

デジタル技術を軸に、効率的な業務プロセスとスピーディーな意思決定を実現します。社内全体の技術者育成に注力し、革新的なデジタルサービスを創出することで、業務プロセスを最適化し、顧客体験を向上させます。これにより、持続可能な成長と業界におけるリーダーシップを目指します。ものづくり企業としてDX推進活動の強化を通じ、人手不足対策・安全管理の徹底・品質の向上・コスト削減の実現を目指します。

－ DX戦略 －

戦略1：クラウド活用

- ・サーバー、ストレージ&基幹システム&グループウェアを順次クラウド上に構築し災害発生時の事業継続強化とお客様へのサービス継続強化を実現します。
- ・クラウドストレージを利用することにより、お客様やパートナー企業にも開放することで、スムーズな書類授受を実現します。

戦略2：バックオフィス管理の効率化

- ・19拠点全体の在庫管理にバーコードを利用することにより、在庫の正確な管理が可能となり、作業効率を向上させます。
- ・バーコードスキャナーを用いてスキャン作業することで、商品の情報を迅速かつ正確に記録でき、棚卸のスピードと精度が手書きの作業方法に比べて大幅に向上させます。

戦略3：顧客サポート&営業活動の効率化

「sansan」を利用して同僚が持つ全ての名刺に、一括で1日2万件のアプローチを行いその後に、営業プレゼン資料を作成する場合には、スライドのデザインやレイアウトをどうするかなどに作業時間を要していたので、要点をまとめた文章から「生成AI」等を利用して、お客様目線にて提案できる資料作成に時間を短縮できるようにします。

戦略4：安全運転管理の効率化

通信型ドライブレコーダーを導入することにより、検出された危険シーンからAIがドライバーの運転傾向を分析し、eラーニング用教育資料を自動で作成・配信。ドライバーは、WEBアプリを通して、自身の運転診断結果や運転傾向を反映した安全運転指導を確認し、振り返りを実施。個々のドライバーに対応したサポートが可能となり、システムによる自動化で、なるべく人の手を介さない安全運転管理を可能にさせます。

－ DX推進体制 －

各部門からDX推進担当者を選抜し、実行体制を構築します。

DX推進責任者 : 代表取締役 高瀬 直弘

DX推進プロジェクトリーダー: 情報システム部 部長

DX戦略担当者 : 営業部 部長、工務部 部長、総務部 部長

DX広報担当者 : 1名 (HP更新等)

－ 人材の育成 －

全社員に対してDXの重要性やその活用方法について、eラーニングを利用して定期的に実施し、新たなビジネスモデルの構築や業務効率化に着手できる人材を育成し、持続的な成長を遂げるための基盤を築きます。

－ 環境整備 －

① ネットワーク整備

社内外からのセキュアかつ高速にクラウドへ接続できるように、全拠点からネットワーク接続できるようにセキュリティ対策を含めた整備を行います。

② クラウドストレージの環境構築

③ 生成AIの積極活用

グループ向けに導入されるAIツール「exaBase」を有効活用

－ 成果指標 －

D X戦略	成果指標	目標
クラウド活用	サーバー・ストレージ・基幹システム 及びグループウェアの移行完了	2026年度
	お客様およびパートナー企業の利用開始	2025年度
バックオフィス管理の 効率化	バーコードスキャナーの利用開始	2026年度
顧客サポート& 営業活動の効率化	一括2万件アプローチ開始 生成AIにて資料作成	2025年度
安全運転管理の効率化	e-ラーニング用教育資料の自動作成 AIを活用した事故リスクのデータ化	2026年度